



日本司法福祉学会 ニュース

No.22

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範研究室気付
Tel : 059-383-9208 (内線2407) Fax : 059-383-9666



会長あいさつ

加藤幸雄

いま、司法福祉を必要とする領野が広がっています。法律的問題決着を必要と考える課題の広がりとともに、法律的決着後もさまざまな福祉的援助を行うことが必要な分野への関心が広がっているからです。例えば、多重債務が裁判決着したのちの生活支援、虐待・被虐待高齢者への心理・社会的援助、高齢・障がい刑余者に対する地域生活定着支援センターなどの課題。いわゆる弱者へのソーシャル・インクルージョンに関わり、法律的知見とソーシャルワーク等の実践が結びつくことの重要度が増していくと思われまます。フォーレンジック・ソーシャルワ

ーカーとして同一人が総合的にコーディネートする。あるいは、法律家とソーシャルワーカー等がジョイントする。高齢化社会が進行し、認知症が増大し、生涯単身者の増加が見込まれ、少子化に歯止めがかかっていない次のステージを考えると、司法福祉には、人と社会を法律と福祉でつなぐ役割が一層期待されています。司法福祉が、仮に協業として成り立つにしても、法律家もワーカーもお互いの領域の知見について、職責の延長として理解を深める努力が、より一層必要になるのではないのでしょうか。

「司法福祉学」編集委員会委員長あいさつ

小林英義

このたび学会研究誌『司法福祉学研究』の編集長を務めることになりました小林英義（東洋大学）です。本学会では設立準備会から参加させていただき、会員の皆様にはご指導をいただいていたところですが、今回、任期三年の編集長の重責を担うことになりました。

編集委員は、私をはじめ、小木曾宏（淑徳大学）、若狭広直（青森少年院）、鈴木崇之（会津大学短期大学部）の計4人が担当します。

編集委員会は学会事務局に置かれる組織ですので

事務局長のご指導をいただきながら職務の遂行に努めたいと思います。今回の第10号（2010年8月発行予定）から編集の一部作業を生活書院（東京都新宿区）に委託することが既に決定され、順次、発行作業が進むこととなります。今後とも量質ともに高い水準の学会研究誌となるように学会会員の皆様のご指導、ご協力をお願いしたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

新役員の顔ぶれ

2009年8月8～9日、日本司法福祉学会全国集会東京大会において、新役員の選挙を行いました。得票数により、理事10名と監事2名を選任し、選任された理事の会議で新たに5名の理事を選任しました。

8月9日、新理事による理事会を開催し、会長に加藤幸雄、事務局長に藤原正範、『司法福祉学』編集委員に小林英義（委員長）、小木曾宏、研究担当理事に野田正人、生島浩を選任しました。

新役員の顔ぶれは、次のとおりです。

[理事]

加藤幸雄（日本福祉大学） *会長
 藤原正範（鈴鹿医療科学大学） *事務局長
 前野育三（関西学院大学〔名誉教授〕）
 野田正人（立命館大学） *研究担当
 小木曾 宏（淑徳大学） *「司法福祉学」編集委員
 生島 浩（福島大学） *研究担当
 前田忠弘（甲南大学）
 服部 朗（愛知学院大学）
 佐々木光郎（静岡英和学院大学）
 佐々木光明（神戸学院大学）
 小林英義（東洋大学） *「司法福祉学」編集委員長
 石附 敦（京都光華女子大学）
 守屋克彦（東北学院大学）
 八田次郎（元少年院長）
 湯原悦子（日本福祉大学）

[監事]

松宮 満（関西福祉科学大学）
 北澤信次（元地方更生保護委員長）

NOFSW（全米司法ソーシャルワーク協会）との学術交流の開始

日本司法福祉学会は、2009年の全国集会（東京大会）にNOFSWから記念講演の講師にお出でいただくよう要請を行い、それをきっかけに司法福祉領域の学術交流が進むことを期待していました。しかし、アメリカの職能団体と日本の学術団体という組織の性格の違いがあり、2009年全国集会への講師招聘を実現することができませんでした。

2010年については、こちら側がアメリカに出向いて今後の交流を求めようと考え、折衝に当たってきました。この度、4月9～13日に開催されるNOFSW全国集会（アトランタ市）に出席が許され、前野前会長、藤原事務局長ほか数名の会員が渡米することになりました。4月12日の全体会で、前野前会長を中心に「日本における司法とソーシャルワークの協働」と題する報告を行う予定です。

昨年11月、加藤会長からNOFSW会長に宛て、両組織の交流を求める書簡を送っています。その書簡では、2010年8月の名古屋集会へのNOFSW会員の講師としての参加もお願いしています。

■ NOFSW（National Organization of Forensic Social Work）について

アメリカのソーシャルワーカーで、法廷において専門的証言をする仕事をする者などを中心にして、その教育訓練のため結成された職能団体。2010年が第27回目の年次大会となる。

第27回大会のテーマは「司法ソーシャルワーク：研究・政策・実践の統合」である。現在、この団体に所属するソーシャルワーカーは、非行、犯罪、子の親からの分離、親の離婚、親の虐待、家庭内暴力、矯正・保護、精神障害など法と人間科学が交わる多くの領域で活動する。

[参考となる文献]

Forensic Social Work - Legal Aspects of Professional Practice Second Edition (Robert L. Barker & Douglas M. Branson) The Haworth Press.
 Social Work and the Law (Ira Neighbors & Anne Chambers) The Haworth Press.

第11回日本司法福祉学会全国集会名古屋大会のご案内

2009年12月14日、2010年2月22日、2回にわたって名古屋大会実行委員会が開催され、次のような大会計画が立てられました。

◎大会日時 : 2010年8月7日(土)～8月8日(日)

◎大会会場 : 日本福祉大学名古屋キャンパス (JR鶴舞駅すぐ側) とその周辺会場

◎大会テーマ : 「犯罪」からの回復とソーシャルワーク

◎大会企画 : (現段階で確定しているところまでを報告します)

・第1日目(8月7日)

午前10時～12時半

日本司法福祉学会、愛知・岐阜・三重県社会福祉士会共催プレ企画

シンポジウム「住民票がないということ——刑務所仮出所者の市民としての復権を考える」(仮称)

司会進行 : 三重県社会福祉士会から

報告者 : 法務省保護局から

話題提供者 : 地域生活定着促進センター SW、刑務所 SW、更生保護施設 SW、自治体担当者、元受刑者等から
4名程度を人選

指定討論者 : 木村隆夫(愛知教育大学・日本司法福祉学会会員)

午後1時半 日本司法福祉学会開会

午後1時40分～2時40分

講演「法廷で証言するソーシャルワーカー」NOFSW 講師

*現在、NOFSW と講師招聘の交渉中である。講師招聘が実現しない場合、NOFSW 全国大会出席の前野育三前会長の渡米報告等を予定したいと考えている

午後3時～5時半

シンポジウム「犯罪よ、病気よ、さらば!——医療観察制度の将来像をめぐって」(仮称)

司会進行 : 松原 新(鈴鹿医療科学大学)

話題提供者 : 精神科医、社会復帰調整官、社会復帰促進センター SW 等から3名程度を人選

指定討論者 : 弁護士等から人選

・第2日目(8月8日)

午前9時～12時半 分科会

午後1時半～3時半 自由研究発表

◎実行委員会からの会員の皆様へのお願い

分科会企画、自由研究発表を募集します。希望者は、次の情報をメールか郵送で、5月10日必着でお送りください。

①分科会か、自由研究発表か

②企画者、研究発表者の氏名・所属

③企画、研究発表の概要(400字程度)

[送付先] 510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001-1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範 f-seihan@suzuka-u.ac.jp

◎実行委員会のメンバー

藤原正範(実行委員長)・山田麻紗子(事務局長)

服部 朗・八田次郎・加藤暢夫・泉 正幸・松浦 信・松原 新・木村隆夫(以上、会員)

寺沢法弘・鷺野明美(会員)(以上、愛知県社会福祉士会)

宮嶋 淳・土屋直樹(以上、岐阜県社会福祉士会)

南川久美子・小野田正晴(以上、三重県社会福祉士会)

加藤幸雄(開催校代表・学会長)

山口幸男(名誉会員・相談役)

事務局からのお知らせ

2月13日の理事会において、次のようなことが決定されましたので、お知らせします。

1. 組織整備について

組織を整備するため、会員番号を付ける、加入退会事務を理事のメーリングリスト使用により迅速化する、会費未納入者への支払い督促をすることが確認されました。

⇒3月末日、2010年度会費の請求に合わせて、全会員に「確認票」を郵送し、住所・所属、会費納入及び学会誌送付の状況把握を行います。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

2. 2011年8月5～9日、神戸市において国際犯罪学会第16回世界大会が開催されます。

日本司法福祉学会は、日本現地の実行委員会の一角をなす組織として、シンポジウム「日本における司法とソーシャルワーカー少年犯罪を中心に」を企画することにしました。企画代表者は、加藤幸雄学会長です。

⇒このニュースレターといっしょに国際犯罪学会第16回世界大会のご案内をお送りします。会員の皆様もぜひともご参加ください（なお、2011年は、この大会のため日本司法福祉学会全国集会の日程が通常の8月第1週の土日から変更になります）。

3. 学会誌『司法福祉学』第10号の編集作業は、現在、順調に進んでいます（編集委員：小林英義・小木曾宏・若狭広直・鈴木崇之）。

第10号から装丁が変更されます。2011年度全国集会時の大会までに査読制度を整えるため、検討を始めました。

4. 2009年9月、日本司法福祉学会事務局の事務作業の一部と学会誌編集作業を「株式会社生活書院」（代表取締役高橋 淳：東京都新宿区三栄町17-2木原ビル303）に委託しました。

5. 『司法福祉学の体系』（仮称）という司法

福祉に関わる本格的出版物の刊行を検討することになりました。研究担当の野田理事、生島理事を中心に、2010年8月の名古屋大会までに結論を得るため、議論を行うことになりました。

事務局からお願い

3月末日に、会員の皆様に2010年度会費の請求書を送ります。早期納入にご協力ください。また、過去の年度の未払いがある会員の皆様の、合わせてのお支払いもよろしくお願いいたします。

会員動向

2月13日理事会で加入が承認された新会員

関 勝夫（私立千葉学芸高校）

細井洋子（東洋大学）

島谷綾郁（小学館集英社プロダクション・黒羽刑務所）

松原 新（鈴鹿医療科学大学）

中島 學（福岡矯正管区総務課長）

渡邊玲子（福岡矯正管区教育課長）

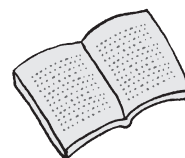
辰野文理（国士館大学）

■2009年12月、法務省「少年矯正を考える有識者会議」委員に石附敦理事が就任しました。

■会員の出版物

小林英義・小木曾宏編著『児童自立支援施設これまでとこれから』生活書院、2009.8

加藤幸雄・藤原正範編著『Q&A 少年事件と裁判員裁判』明石書店、2009.12



◎今後もニュースレターで会員の皆様の各種委員就任、出版の情報を紹介します。会員の皆様からの積極的な情報提供を待っています。